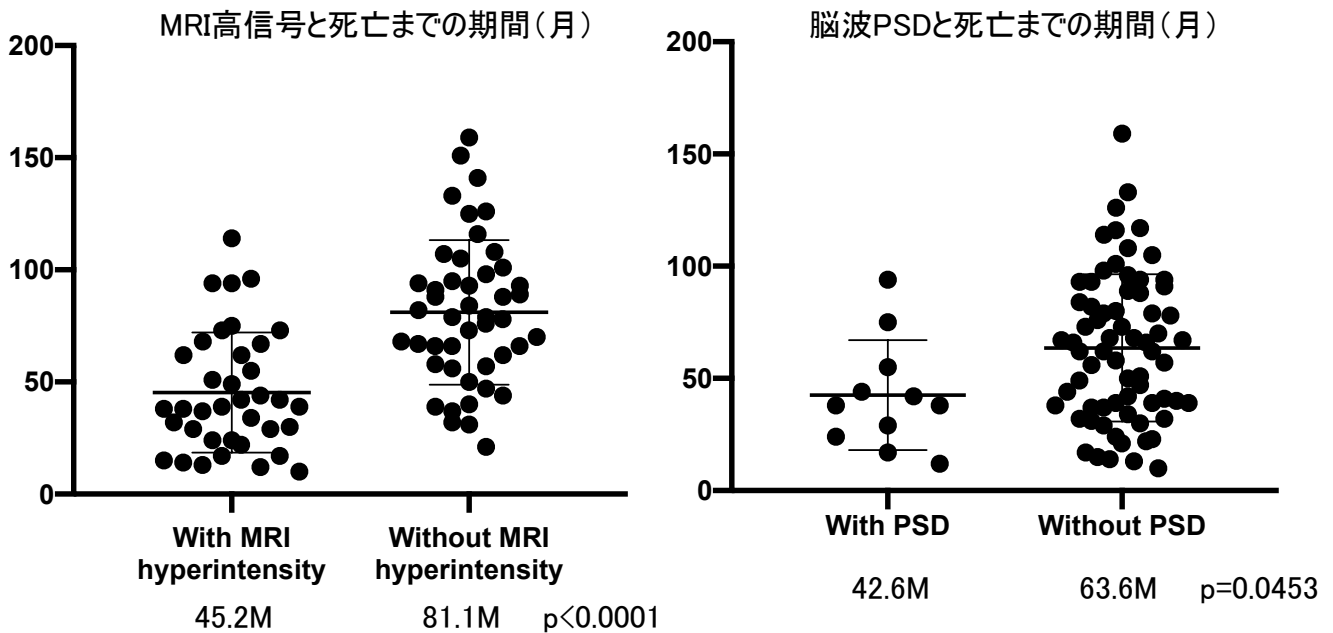


本邦におけるGSS-P102Lの臨床疫学的検討 —20年の総括—

研究分担者: 国際医療福祉大学医学部 脳神経内科 村井弘之

基本的情報	n=132
男:女	63/69 (1:1.1)
発症年齢 (range)	55.4 (22-75)
家族歴 (%)	90.2
全経過 (月, range)	67.1 (10-186)

初発症状	n=140 (重複あり)
小脳失調	75.8%
認知症	15.2%
脱力	6.1%
感覚障害	6.8%
その他	2.3%



解 説

1. GSS-P102Lが、計132人集積され、これはこれまでで最大の解析数である
2. 平均発症年齢は55.4歳、家族歴を有する割合は90.2%にのぼった
3. 初発症状は75.8%が小脳失調であり、認知症の15.2%を大きく上回った
4. MRIの高信号を有する群、脳波のPSDを有する群は有しない群と比較して死亡までの期間が有意に短かった